

# 「北山文化環境ゾーン整備委員会」における検討状況について

平成22年5月  
文化環境部

## I 経 過

『北山文化環境ゾーン整備推進委員会』（H21.4.24設置）で提案された『街区構想』（H21.10.5報告）に基づき、府立総合資料館と府立大学とが連携する新施設（以下、「新資料館」という。）並びに府立大学、府立医科大学及び京都工芸繊維大学の教養教育を共同化する施設（以下、「3大学教養棟」という。）の機能と位置及びこれに必要な関係エリアにおける機能配置等を検討

## II 施設の機能等

### <新資料館>

○ 北山地域が、文化・環境・学術の交流・発信拠点となるように、京都の歴史・文化に関する資料を収集・保存・調査・研究し、国内外に情報を発信する施設を整備

#### 【機能等】

##### ▷ 「国際京都学センター」の設置による、全国的・国際的交流と情報発信

- ・ 京都に係る「知」の更なる深化（共同研究の推進）
- ・ 京都しらべ環境の充実・強化
- ・ 「知」の府民への還元 など

##### ▷ 総合資料館機能の充実（京都に関する資料の収集・保存と提供や、研究・学習・教育支援、公文書館機能）

##### ▷ 府立大学文学部との機能連携（研究室等）

##### ▷ 府立大学附属図書館との機能連携（資料館と大学図書館の閲覧提供のワンフロア化）

##### ▷ 相互の連携強化による京都文化等の更なる発展に向けた機能の発揮 （府民サービスの向上）

- ・ 府民利用期間・時間の拡大、閲覧の一体化
- ・ 研究、学習、教育支援の強化 など

### <3大学教養棟>

○ 京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学の学生の教養カリキュラムの共同化により、学生の多様な関心・教育要求に応えるとともに、相互の学生交流を通じた全人教育を展開するため、3大学の教養教育を共同化し、必要な施設を整備

#### 【機能等】

##### ▷ 教養教育共同化施設の機能

- ・ 教養教育の実施、3大学教養教育共同カリキュラムの開講
- ・ 3大学連携研究・ゼミ等の実施、学生等の交流 など

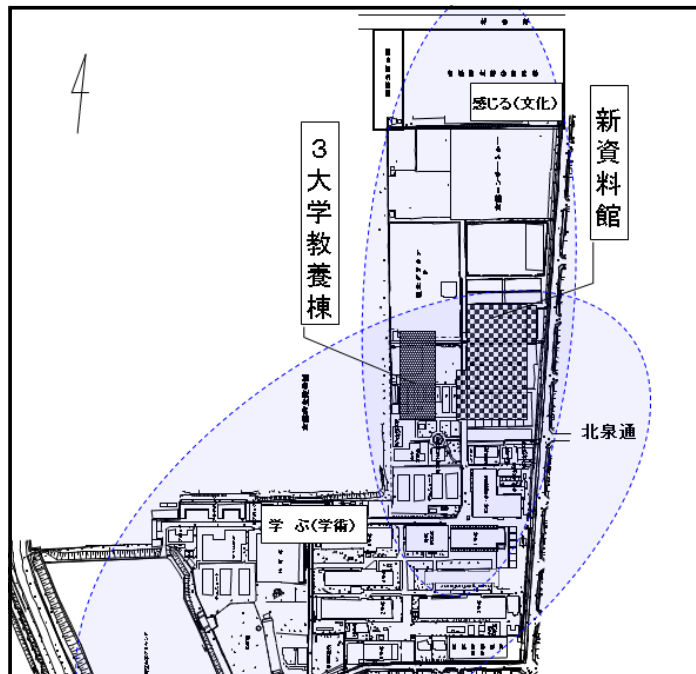
### <共通事項>

- 講義利用のない時間帯での空き室の相互利用・効率化
- 学会の誘致・開催による北山地域における京都学等の学術発信拠点としての地位向上

### III 施設の位置

#### ○ 位置の考え方

『北山地域エリアイメージの、「感じる（文化）」と「学ぶ（学術）」がオーバーラップしているあたり、また、京都学振興を大きな目標としている府立大学エリアにもかかる位置』とする。（「街区構想」による）



(新資料館、3 大学教養棟の位置)

- ※ 中通り面につき、コンサートホールとの連続性に配慮
- ※ 両施設間にゆとりを持たせる
- ※ 京都工芸繊維大学との一体性に配慮した大学正面エントランスの整備

### IV 関係エリア間全般の配慮事項

#### 1 文化と環境に包まれた

- ▷ 京都らしい文化的な要素を織込み、小規模な文化活動を積極的に支援
- ▷ 環境やひとにやさしい空間、バリアフリー、ユニバーサルデザイン

#### 2 やすらぎのなかで

- ▷ 圧迫感を与えるような建物を避け、道路からの視覚的な抜け、建物間の見通しを重視
- ▷ 町の喧噪や日常を忘れる街並み

#### 3 交流のなかで

- ▷ 3大学の交流・連携の促進
- ▷ 自然の通風や採光を最大限に取り入れ、人が憩うオープンなスペース

#### 4 開放感があふれる

- ▷ 賀茂川と植物園の接点を増やした広域ネットワーク
- ▷ 植物園の緑を周囲に拡張し、人の移動を促進

#### 5 歩いてまわりたくなる

- ▷ 安心して歩ける道、回遊したくなる道、エリアに人を呼び込む動線としての街路整備
- ▷ 再び足を運びたくなる名所としての並木道（プロムナード）

<参 考>

◇ 北山文化環境ゾーン整備委員会委員

(委員は50音順)

氏 名	現 職 名
麻生 純	京都府副知事
井口 和起	京都府立総合資料館館長
江島 義道	京都工芸繊維大学学長
勝見 彰	京都府公立大学法人事務総長
川崎 雅史	京都大学大学院工学研究科教授
公文 俊一	北山街協同組合理事長
小嶋 祥洋	京都府建設交通部技監
竹葉 剛	京都府立大学学長
田隅 靖子	京都コンサートホール館長
中川 大	京都大学大学院工学研究科教授
中野 淑夫	中野公認会計士事務所所長
松谷 茂	京都府立植物園園長
山岸 久一	京都府立医科大学学長